



さくらちょうしょう

桜町小だより

「緑と笑顔がいっぱい桜町小」

児童数 333名 令和6年5月7日(火)



「言葉」

校長 小川 哲

連休が明け、寒暖の差がある日が続いていますが、校内では植物たちが確かに成長しています。

今の3年生が2年生のときに国語の授業で創った詩を一つ紹介します。自分の心の中にある想いを表している言葉を選びながら、紡いで、創り上げたのでしょうか。切ない中にも子供らしい純粋な気持ち表れていて、読み終えた後に心から応援したい気持ちになりました。子供たちの詩や文章を読むと、子供たちのもつ「言葉」の豊かさや純粋さが心に響いてきます。



先日、私が出張に行こうと運動場の横を通り過ぎるとき、体育授業を始めるのに並んでいたさくら学級の子供たちが手を振ってくれました。「がんばって」と声をかけると「はい」と答えてくれました。また、体調を崩してマスクをしていたときには、6年生の子供たちが「昨日、なんでいなかったの?」「大丈夫ですか?」「お大事にしてください」と優しく声をかけてくれました。

「校長先生へ じゅぎょうの時間に、まい日ほめてくれてありがとうございます」「校長先生へ 授業を見に来てくれて、朝あいさつをしてくれて、ありがとうございます。わたしは明るい校長先生が大好きです!校長先生を見ると元気になれるです!」というお手紙ももらいました。こういう何気ない日々のやりとりが本当にうれしいです。

「言葉」は相手を元気にしてくれたり、温かい気持ちにしてくれたりします。また、自分の考えや意見、気持ちや想いも「言葉」にしないと相手に伝わらないことも多くあります。一方で、相手を傷つけたり、悲しい気持ちにさせたりすることもあります。4月に行われた離任式や一年生を迎える会で子供たちが発した言葉や歌はどれも温かいものでした。メールやSNSなど、表現や伝達の方法が多岐にわたる時代だからこそ、各教科等の表現方法を学びながら、言葉を大切に教育活動を展開していきたいと思います。そして、相手のことを思いやり、意識して言葉を発信し、相手の言葉を聴ける子供たちを育ていきたいと思います。私たち大人も、言葉を大切にできる人でありたいと思います。



わたしの友だち
わたしの友だち
トルコに帰った友だち
かなしかった
でも、またぜったい会えると、
しんじてる
はなれても大じな友だち